
QA6 福島第一原子力発電所の敷地内で微量のプルトニウムが検出されたようですが、健康への影響はありませんか

プルトニウムは元々自然界にはほとんど存在しない核種です。しかし、現在では微量ですが土壤中に普通に存在します※1。これは1950から1960年代に盛んに行われ、その後1980年代まで続いた大気圏内の核実験に由来するものです。これが、土壤に吸着されて未だに残っているわけです。今回の事故で、測定されたプルトニウムは微量で※2、上記の核実験に由来するものとほぼ同じレベルであり、この程度であれば、健康への影響はないと考えられます。

プルトニウムはセシウムやヨウ素のように低い温度で気化することはありません。よって現時点では健康に影響が出るような量のプルトニウムが広範囲に飛散する事はありません。ただ、今後の調査により、海側も陸側もその汚染の広がりを慎重に確認していく必要があります。

関連リンク

※1：文部科学省「環境放射能データベース」によると2008年の福島市ではPu-238およびPu-239及び240がそれぞれ0.011～0.22、0.029～4.3ベクレル/kgが検出されました。過去の放射性物質降下に関するデータは「環境放射能調査研究成果発表会」の第52回成果論文抄録集もご参照下さい。

※2：東京電力福島第一原発敷地内グラウンドで平成23年3月21日に採集した土壤からPu-238およびPu-239,240がそれぞれ 0.54 ± 0.06 、 0.27 ± 0.04 ベクレル/kg検出されました。同所から8月29日に採取した土からは、それぞれ 0.25 ± 0.02 、 0.12 ± 0.01 ベクレル/kgが検出されています。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイトより作成

公表日：2011年9月27日

更新日：2012年12月25日